# 多文化共生教育支援事業報告書

## 1　委託業務名・概要

(1)業務名　外国人児童生徒の日本語、教科等の学習支援

(2)概要（事業の要約・事業の目的など）

外国人児童生徒に対して、日本語指導支援や、教科学習支援及び進路指導等の支援を、地域の外国人保護者（グループ「いしはま」）を中心に、教師やボランティアの方との協働で進める。それにより、学校や地域で生活していく上での不安を取り除き、生活により適応できるようにしていく。

## 2　実施事業について

(1)実施時期　平成１７年７月１日（金）～平成１８年２月２８日（火）

(2)実施地域　知多郡東浦町

(3)事業の具体的内容

県営東浦住宅には、ブラジル人をはじめ多数の外国人児童生徒が生活している。その敷地内にある石浜集会所を利用して、グループ「いしはま」のメンバーが中心となり、事業を計画し実施した。事業の具体的な内容は下記の通り。

ア　日本語、教科等に対する学習支援

（ア）日本語指導

外国籍児童やその保護者を対象にして、毎週木・土曜日に、日本語指導を行った。

| 開催回数 | 参加者数 | 指導者数 | 主な内容 |
|---|---|---|---|
| ４６回 | ６０名 | ５名 | 日本語指導（読み書き） |

（イ）教科補充指導

児童生徒を対象にして、夏休みの１０日間（８月１日～５日及び８月２２日～２６日）と冬休みの４日間（１２月２６日～２７日及び１月５日～６日）、教科の宿題や自作の教材を使って、教科の学習についての指導を行った。

| 開催期間 | 参加者数 | 指導者数 | 主な内容 |
|---|---|---|---|
| 夏休み（10 日間） | 小１５０名<br>中　５０名 | ８０名 | 夏休みの課題、日本語、習字 |
| 冬休み（４日間） | 小　４０名<br>中　１０名 | １０名 | 冬休みの課題、日本語 |

（ウ）高校受験対策に対する支援

高校進学を希望する中学３年生を対象にして、冬休みと１月からの第２・４土曜日に、過去の入試問題集を使って、受験勉強の支援を行った。

| 参加者数 | 指導者数 | 主な内容 |
|---|---|---|
| ５名 | ４名 | 入試に対応した教科指導、面接指導 |

（エ）夏休みの宿題についての説明会

児童生徒とその保護者を対象にして、夏休み前に、夏休みの宿題の内容や提出日などについて、説明を行った。

・開 催 日　平成１７年７月２２日（水）午後６時～

・参加者数　３０名

イ　進路に対する支援

（ア）進路学習会の実施

児童生徒とその保護者を対象にして、８月下旬に、中学校卒業後の進路についての説明会を開催し、進路についての情報を提供した。

・開 催 日　平成１７年８月２１日（日）

・参加者数　２５名

（イ）進路相談、教育相談

生徒とその保護者を対象にして、７月上旬・１０月中旬・１月下旬・２月上旬に、進路や生活についての相談活動を行った。

| 開　催　日 | 参加者数 | 指導者数 | 主な内容 |
|---|---|---|---|
| ７月２６日（火） | １０名 | ２名 | 夏休みの生活に向けて |
| １０月１９日（水） | ５名 | ２名 | 中学３年生の進路相談 |
| １月２４日（火） | ５名 | ２名 | 中学３年生の進路相談 |
| ２月１４日（火） | ８名 | ２名 | 中学２年生の進路相談 |

ウ　生活に関する知識を深めさせるための支援

（ア）「性」について

生徒を対象にして、夏休み前に、「性」についてのビデオを活用して、妊娠やエイズについて、話し合う機会をもった。また、９月上旬には岡崎市のブラジル人医療相談員にも指導してもらった。

・開 催 日　平成１７年７月１５日（金）　平成１７年９月８日（木）

・参加者数　それぞれ２０名

（イ）「薬物」について

生徒を対象にして、冬休み前に、薬物についてのビデオを活用して、薬物の怖ろしさについて、話し合う機会をもった。

・開 催 日　平成１７年１２月１５日（木）

・参加者数　２３名

（ウ）「食」について

生徒を対象にして、冬休み前に給食センターの栄養士の方の協力により、実際に塩辛い料理を口にすることで、食生活の改善が必要であることを学ぶ機会をもった。

・開 催 日　平成１７年１２月２０日（火）

・参加者数　２３名

## ３　実施結果（実施の効果等）

（１）日本語指導について

・日本語を習うブラジル人が増えていき、この会の輪が広がっている。ブラジル人に日本語を教えるという目的でスタートした会が、日本人からの希望で，日本人にポルトガル語を教えるようにもなった。外国人と日本人が相互理解をするよい機会となっている。

（2）教科補充指導について

・児童生徒一人一人にきめ細かく指導ができ、児童生徒はとても一生懸命宿題を取り組んでいた。

・講師として地域のボランティアの方にも積極的に参加していただき、地域ぐるみの取り組みの第一歩を踏み出すことができた。

・この会のために、保護者の方が差し入れのお菓子を持ってきてくれたり、勉強の様子を見に来てくれたりして、保護者への関心が高まりつつある。

・公立高校に進んだ卒業生たちが、中学生のために勉強を教えてくれたり、高校の様子を話してくれたりして、中学生は高校進学への気持ちを高めることができた。

（3）高校受験対策に対する支援について

・地元の公立高校を希望している生徒に対して、個別指導を進めた。まじめに取り組み、数学の計算問題が以前よりもできるようになってきた。また、学校の授業にも前向きに取り組むなど、個別指導を行った成果が表れていた。

（4）夏休みの宿題についての説明会

・児童生徒とその保護者は宿題についての説明を真剣に聞いていた。保護者に学習について、関心をもってもらうという意味でもよい機会となった。

（5）進路学習会の実施について

・保護者から進学に関する基本的な質問が多く出され、進路についてのシステムについて理解する場となった。進路についての情報をもっと提供する必要を痛感させられた。

【質問の例】
・高校受験のシステム（複合選抜）について知りたい。
・専門学校の種類とその内容が知りたい。
・公立高校と私立高校の違いを知りたい。

（6）進路相談・教育相談について

・進路に関わらず生活全般について、意見交換を実施することができた。外国人児童生徒や保護者の悩みなどを聞き、学校や地域に何を求めているか、きちんと把握することが可能となった。

（7）生活に関する知識を深めさせるための支援について

・「性」、「薬物」、「食」の３つのテーマに基づき実施したが、ほとんどの生徒から「知らなかった」という声を聞いた。今後、継続的に学校と地域一体となり外国人児童生徒の生活に関する知識を深めるための取組みを行う必要がある。

## 4　事業の特質（工夫した点など）

・外国人児童生徒が生活に対して不安を持つと同時に、その保護者も同様に不安を抱えている。そこで、保護者の不安を取り除くことが子どもたちにも効果があると考え，学校の先生と連携し、できるだけ多くの保護者への参加を促した。また、進路相談や教育相談の会だけでなく、電話連絡や家庭訪問をして、保護者との情報交換を密にするように心がけた。

・できるだけ早い時期から将来について真剣に考えてほしいという考えのもと、小学生のうちから、将来について考えさせる機会を多く持たせ、進路についての情報などを正確に伝えることに心がけた。

・上級の学校へ進学するときの不安を少しでも取り除くために、中学校、小学校、保育園の子ども同士や保護者同士のつながりを意識して、事業を進めた。

・昨年度発足した東浦町教育国際化推進協議会で外国人生徒の生活について話題になったこともあり、生徒の実態を踏まえた内容（性や薬物）を重点的に指導した。また、実施時期についてもタイムリーな内容となるように工夫するとともに、この推進協議会のメンバー同士での情報交換をしっかり行い、生徒の実態をしっかり把握することに心がけた。

・外国人がたくさん住む石浜団地の近隣にある集会所を会場にすることにより、できるだけ多くの児童生徒や保護者に事業に参加を促すようにした。

## 5　今後の課題

・講師として、できるだけ多くの人材を確保できるようにする必要がある。そのためには外国人だけでなく、日本人をいかに事業に参加してもらうか考える必要がある。

・生徒に対して、ビデオ教材などの資料はとても有効である。今後は、いかに、生徒が興味を引いて理解しやすい資料を見つけ、活用していくかを考える必要がある。また、地域の子ども達の特性を活かした教材の研究・開発なども必要である。

・日本の学校のシステムが性格に理解していない中、子どもに何をしつけてよいのか不安に感じている保護者が多い。上級の学校に入学する前にしっかりとした情報提

供をする必要がある。また、学校での情報提供だけではなく、地域と協働で取組むことで、保護者の理解も深まることが期待できる。

・県営石浜住宅には、どこの教育機関にも就学していない不就学の子どもがいる。そういった不就学の子ども達が教育機関に就学できるよう、学校と地域が連携・協働し、どのように保護者や子どもたちに働きかけをしていくかが最大の課題である。

## 6　その他参考事項

・グループ「いしはま」のメンバーや、日本人の保護者、他の地区のボランティアが協力して、東浦町在住の外国人のための情報誌「かけはし」を発行し、外国人が生活に適応できるように、いろいろな情報を与えている。これは日本語の理解度に合わせて、ポルトガル語と日本語のふりがなつきの２種類で作られている。さらにいろいろな立場の人にも作成に加わっていただきたいと考えている。

第２号（９月）の目次

・世界子ども交流プログラム
・産業まつり
・歯磨き粉は必要ですか？
・乳幼児健診、予防接種の予定
・国勢調査
・ケニア共和国のゲストハウスにたちよってみてね！
・近所づきあいの心得
・休日診療当番表
・児童館のお知らせ